中野区立歴史民俗資料館だより

# しいのき

創刊号

## 発刊にあたって

名誉館長　三　隅　治　雄

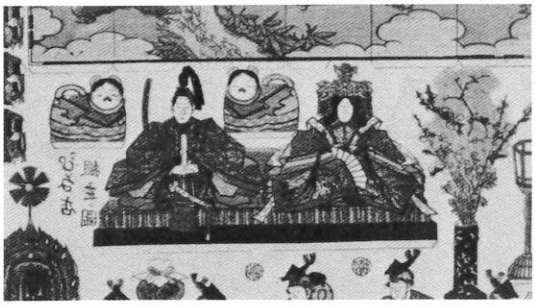
当館の東側の、窓越しに見える山崎家の庭園に、椎の巨木がそそり立っています。著名な樹医の山野忠彦氏の調査では、樹齢6～700年と申しますから、何と鎌倉中期から南北朝にかけての時代にすでにこの地にあり、長年の風雪にたえながら、この武蔵野の台地と谷あいの人々の生活の移り変わりを見つづけてきたわけです。芒(すすき)生い茂る荒涼の原野がやがて都内一、二の過密都市にまで変貌する、その逐一を観察した歴史の生き証人で、つまりは、この椎の木は、中野の歴史のシンボルと申せましょう。館報を「しいのき」と命名したのもその意味ですが、もうひとつ、街から緑が失われて砂漠化がすすむこの時代、折り折りに椎の木を眼のあたりにする館にお越し頂いて心と知識のクリーニングをして頂きたい願いも、私どもにはあるのです。

# 文化財よもやま話

## おびなめびなのみぎひだり

毎年、雛祭りの時期が近づくと、男雛と女雛の位置について、どちらを左に、どちらを右に飾るのかということが話題にされます。この疑問はマスコミにもしばしば取り上げられてきました。

歴史的に見ると、わが国では古くから左が尊いとされ、唐の律令制をまねた平安時代の官職においても、左大臣は右大臣より位が上でした。



江戸時代に入ってからも、同時代に描かれた雛祭りの絵を見ると、大部分は男雛が左（向かって右）に、女雛が右（向かって左）に配置されています。これは左を貴しとする古来の考え方に依って、男雛の左に女雛をおかなかったものと思われます。この配置は明治・大正時代に入っても続けられており、絵画や新聞記事に掲載された雛人形の並べ方を見ても同様に飾られています。

しかし、昭和の初め頃になって、男雛と女雛の位置が逆になります。その大きな理由の一つとして、昭和３年11月10日に紫宸殿で行われた昭和天皇の即位大礼の際の天皇・皇后の御座の左右にならったという説があります。この並べ方は、東京の雛人形組合で決められたもので、京都では従来どおり男雛は左（向かって右）、女雛は右（向かって左）に飾られています。

現在では、雛人形の販売市場として大きな位置を占めるデパートが東京方式を採ったため、向かって右に女雛、左に男雛を飾っているのが一般的です。しかし、完全に統一されたわけではなく、昭和45年２月13日付の朝日新聞でもこのことについて特集を組んでいて、結論が出ないまま、今日に至っています。

# 大地に眠る歴史

## たくさんあります中野の遺跡

考古学において調査や研究の対象になる、過去の人々が残した痕跡は大きく二つに分けられます。

それは住居跡や古墳に代表される「遺構」と、土器や石器などの「遺物」で、これらが見つかる場所が「遺跡」と呼ばれます。中野区内には遺跡が約100ヶ所あり、東京23区では群を抜く高い確率で発見されていますが、それは何故でしょう？

中野区のある武蔵野台地の下には地下水が流れており、台地の東端、つまり練馬・杉並・中野付近で水位が浅くなって湧き水となります。神田川や妙正寺川など区内を流れる河川はこの湧き水を源として、蛇行しながら台地内を流れ、侵食谷や河岸段丘（川ぞいの高台）を形成していきます。

さて、水場に近い日当たり良好の高台で、食物採集や狩猟が可能な森林のあるところは、生活に適した場所となります。中野の地はこうした条件を備えており、一万年を越える昔から人々の生活が営まれてきました。地図に示したように、区内を流れる河川を取り巻くように遺跡が認められるのは、このような理由によるものです。

今、私達の住んでいる大地の下には、昔の人々の暮らしの跡が眠っているのです。

中野区で
確認された遺跡

# 古文書つづり

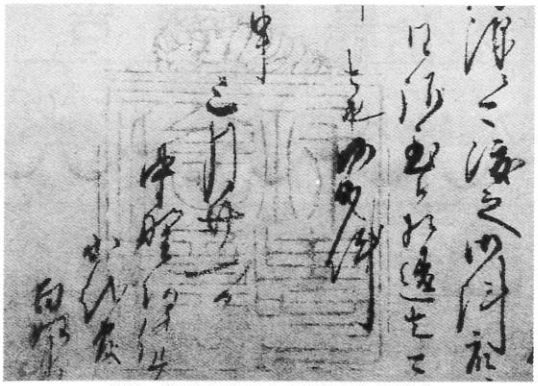
## 中野最古の文書

中野に関する古文書は、現在かなりの数が確認されていますが、その中には今をさかのぼること数百年前のものもあります。

中野に伝来する古文書で最古のものは、天正4年(1576)の北条氏直の朱印状で、今から415年前のものです。これは、旧中野村の名主家であった堀江家に代々伝えられてきた古文書で、天正12年(1584)の北条氏直朱印状および天正18年(1590)の豊臣秀吉の朱印状とともに、現在は宝仙寺に託されています。

この天正4年の朱印状は「江戸中城塀之事」と言い、中野郷の小代官（堀江氏）と「阿佐ヶ谷百姓」に、江戸城の塀が壊れた場合、4間(約7.2m)の修理を担当すべきことを命じた文書です。

大きさは、たて315ミリ、よこ415ミリで、虎を戴いた「禄寿応穏」の印面をもつ朱印が捺されている虎判文書です。



虎印（天正12年北条氏直朱印状）

また、区外にある中野に関係する古記録で最古のものは、和歌山県の熊野那智大社に所蔵される『米良文書—めらもんじょ』（重要文化財）の中にある貞治元年(1362)の「武蔵国願文—むさしのくにがんもん」です。これは、熊野で祈禱や宿泊の便をはかる御師（おし）が、中野郷と江戸郷の檀那（だんな—祈禱をうける信者）の祈願する願文を捧げた回数を記録したもので、はじめて「武蔵国多東郡中野郷」という地名がみえる文書です。

## 中野往来

### — 東京中野と新潟柏崎 —

今年、小正月行事のまゆ玉づくりをした時に伺った話です。江古田一丁目の海津ハルさん（大正7年生）は、子供の頃、柏崎で小正月に家の長男が「柿の木、柿の木、ならんかなるか、ならんと鋏(はさみ)でちょん切るぞ」と言いながら鉈(なた)で柿の木に傷をつけ、妹のハルさんが「なります、なります」と言って小豆粥(あずきがゆ)を傷口にぬりつけたそうです。

以前に聞いた話ですが、上高田三丁目の細井稔さん（大正2年生）は、ひいお爺さんが「ならべっこ、ならべっこ、なるかならぬか、ならねば、根っこからたたっ切るぞ」と言いながら鉈の峰で傷をつけ、ひ孫の稔さんが「なりまする、なりまする」と言って小豆粥をつけたと言うことです。

地域によって柿の木を威かす言葉づかいやニュアンス、主役などが違い、地域性があって面白いと思いませんか。

ちなみに、かつての中野は、柿の名産地でした。今でも、区内に幹回り1mを超える木が100本以上もあります。

## 中野昔話

### — ヤタローさんの名前 —

家のこの先にね、いたんでね、その子どもがね、ヤタローっていうのがいるんですよ。それがね、自分とこではね、キョウサクって付けたんですよ、名前をね。

そしたらね、役場へ行ってね、そのおやじさんがね、「何て名前だ」って言われたら「やたらでいいや、やたらでいいや」つったらね、ヤタローになっちゃってね。自分とこじゃキョウサクだって付けたのがね、ほんとはヤタローになっちゃったの。結局笑い話みたいでしょ。

それ、すぐ、そこの、家のそこにいたんだけど、今、石屋さんで、豊玉に行ってるんだけどね。その人の子どもぐらいになってんだけどさ。その親が、それをぼくらに言った。

（江古田　男　明治37年生）

# 事業報告

## 入館状況

平成元年10月～12月（72日間）　（人）

| 一般 | 行政視察 | 学校教育 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 10,478 | 147 | 1,710 | 12,335 |

平成２年１月～３月（71日間）　（人）

| 一般 | 行政視察 | 学校教育 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 10,237 | 151 | 858 | 11,246 |

## 各種事業経過

平成元年度

| 事業名 | テーマ内容 | 日時・期間 |
|---|---|---|
| 企画展 | 「ＴＨＥ テニス」―その歴史― | 平元.10.1～11.16 |
| 講演会 | 「テニスよもやま話」　宮城淳氏（日本テニス協会専務理事） | 平元.11.11 |
| 史跡めぐり | 「江古田コース」　真田芳雄氏（区文化財保護審議委員） | 平元.11.26 |
| 古文書講座 | 「入門コース」　寺崎弘康氏（館専門研究員） | 平２.１.14～３.25 |
| | 「研究コース」　大友一雄氏（徳川林政史研究所） | 平２.２.７～３.28 |
| ミニ展 | 「おひなさま展」―江戸・明治・大正・昭和のおひなさま― | 平２.２.６～３.４ |
| 歴史講座「近世江戸学入門」 | 「江戸と近郊農村」　川崎房五郎氏（江戸東京歴史研究家） | 平２.２.３ |
| | 「民俗芸能と人びとのくらし」三隅治雄氏（実践女子大教授） | 平２.２.10 |
| | 「江戸の女性たち」　興津　要氏（早稲田大学教授） | 平２.２.17 |
| | 「生類憐みの令と中野犬小屋」大石　学氏（名城大学助教授） | 平２.２.24 |
| | 「象の大旅行」　小林清之介氏（動物文学者・俳人） | 平２.３.３ |
| | 「石仏に見る信仰の世界」岡田芳朗氏（女子美術大学教授） | 平２.３.10 |
| | 「青梅街道と中野」　伊藤好一氏（関東近世史研究会員） | 平２.３.17 |
| | 「中野の伝説と昔がたり」中島恵子氏（日本民俗学会会員） | 平２.３.24 |

## 寄贈資料一覧

昭和63年１月～12月

| 資料名 | 点数 | 氏名（敬称略） |
|---|---|---|
| 家庭用品購入通帳 他 | 13 | 庄野　正一 |
| 絵はがき | 8 | 村上英二郎 |
| 書籍 | 250 | 堀野　新治 |
| 石臼・石臼用台 他 | 4 | 篠崎吉之助 |
| 押絵びな | 5 | 渡辺　ちよ |
| 三段手下げ弁当箱 他 | 2 | 小田桐政一 |
| 手ぬぐい用衣桁 他 | 7 | 網井　芳亮 |
| 足袋製造用具一式 | 7 | 中井川雅一 |
| たんす・銅鍋・水筒 他 | 8 | 奥泉　昭一 |
| たんす | 1 | 深井　慎蔵 |
| ガバ・せいろ 他 | 12 | 篠　潔 |
| ミシン・火消し壺 他 | 10 | 真貝　隆雄 |
| のこぎり・かんな 他 | 46 | 高野　光雄 |
| 下駄職人道具一式 | 43 | 米川　文 |
| 小学習字帳・裁縫教科書 | 12 | 中村　トミ |

●貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

企画展「ＴＨＥ テニス」開催風景

発行年月日　平成２年４月１日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
中野区江古田４－３－４
☎　03（319）9221
FAX 03（319）9119
（印刷物登録番号　２中教社社第１号）